

科学館運営理念及び運営方針に基づく評価項目

福岡市科学館では、運営理念「人が育ち、未来をデザインしていく科学館」のもとに6項目の市民との「約束」(「運営方針」)を定めており、その他1項目を追加した上で7項目とし、「重点実行計画」と「重点実現目標」を設定している。これらについて事業者の各種報告書や実地調査、ヒアリングをもとに評価を行った。

【評価の区分】

A	優良: 目標を超える成果を挙げている。内容が特に優れている。
B	適正: 計画に即して目標を達成している。内容が適正である。
C	要改善: 目標が達成できていない点がある。もしくは内容の改善が必要である。

【運営理念】人が育ち、未来をデザインしていく科学館

運営全体実現目標	市評価 総評(総括的な意見等)
科学館利用者数	A コロナ禍の影響があったものの、幅広い年齢層に向けたイベント、講座等を実施し、来館者目標値を達成することができた。

【運営方針①】科学を担う人やクリエイターなどと市民とが交流することによって、新しいサイエンスコミュニケーションのありかたを提案していきます。

実行計画	中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)	市評価 総評(総括的な意見等)
科学を担う人やクリエイターなどと市民とが交流する	各カテゴリー(講座、サイエンスカフェなどのカテゴリー)ごとに交流の質を上げたプログラムを企画・実施します 九州大学を始めとする研究機関と連携を強め、話題性のある科学情報、最新の科学情報を取得・発信する機能を強化します SC開発会議の円滑な運用に努め、そのもとにプロジェクト(分科会)を設置します サイエンスコミュニケーター養成講座を開設します	A セミナー・講座・サイエンスカフェにおいては、身近な科学の疑問から、大学院生の研究をテーマとした専門的なものまで幅広い内容で実施し、来館者の科学への興味・関心を刺激する機会を多数提供することができた。 また、ワークショップの実施にあたり、「事前学習型」のプログラムを新たに試行した。その中で、ワークシートを事前に作成し、幅広い年齢層の意見を参加者間で共有するなど、新たなサイエンスコミュニケーションの手法を実践したことは評価できる。
新しいサイエンスコミュニケーションのあり方を提案していきます	交流の質を上げたことによる「市民の育ち」、「市民への役立ち」 話題性のある科学情報、最新の科学情報の取得・発信 新しいSCのあり方の理論化と提案 福岡市科学館を含む福岡で活躍するサイエンスコミュニケーターの養成	

【運営方針②】幼児から高齢者までに対応する展示とプログラムを充実することによって、すべての人が科学を楽しみ、創造するよころびがある科学館をつくります。

実行計画	中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)	市評価 総評(総括的な意見等)
幼児から高齢者までに対応する展示とプログラムを充実する	従来の科学館利用者層を超えた利用者層を開拓するため、敷居の低い市民参画イベントを数多く打っていきます 基本展示室では、福岡市科学館独自のものを含む魅力ある展示アイテムへ更新します 全体としてすべての人が興味を持てるように、バランスのとれた特別展・企画展を実施していきます 運営サポーターによる新規プログラムの開発を支援し、実際にプログラムを実施します 市民参加を含む双方向性のある中高生・大人向け企画を充実していきます 創造(単なるものづくりではなく、自らが考案するという意味)までを目的としたプログラムや応用力を養成するプログラムも開発・実施します サイエンスナビシステムの充実と使いやすさを追求するとともに、館内の図書が検索可能となるようにしていきます 市民参画の番組制作や市民による番組制作を含む、新たなドームシアター番組を制作・提供していきます 科学館全体を新鮮に保つため、季節感を出すことや壁面・その他の利用を総合的に考えていきます 「人の育ち」指標の考案 団体にリピーターとなってもらうための方策を考えます アウトリーチ活動などを通じ、未利用者との新たな関係づくりにアプローチします ユニバーサルミュージアムを目指した取り組みを日常的なかで進めていきます	B 昨年度に引き続き、未就学児向けのイベントや、中高生をターゲットとした講座、高齢者世代を対象としたセミナーなど、幅広い年齢層の利用促進に取り組んだ。 基本展示の更新においては、一部計画から遅延した展示もあったため、次期更新においては、実現可能性のある計画を策定し、確実に実行していただきたい。 特別展では、地元である六本松の飛行機工場をテーマとした「ヒコキ展 一空に駆ける情熱」を開催した。福岡市科学館独自の企画・展示を行い、科学技術の紹介にとどまらず、そこに携わる人々の思いについても紹介し、六本松の新たな魅力を市民へ発信し好評を得た。 アンケートの分析結果によると、中高生の利用者の割合は依然として低いため、広報の方法等も含めて利用者増の方策を検討していただきたい。
すべての人が科学を楽しみ、創造するよころびがある科学館をつくります	中期重点実現目標 従来の科学館利用者層を超えた利用者層の開拓 展示・プログラム・ドームシアター番組などによる「育った感」や感動の実現 展示の新鮮さの保持と基本展示室を中心とした科学館全体の「新しさ感」の演出 運営サポーターの新規プログラム開発による達成感の獲得と育ち 市民参画の開発・制作等による人の育ち 上記などによるリピーターの獲得 関係づくりのなかからの新規の利用者の掘り起こし	

【運営方針③】子どもたちの好奇心・疑問・考える力・創造性が育つ機会を提供することによって、一人ひとりの科学する力が伸びることに寄り添います。

実行計画		市評価	
中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)		評価	総評(総括的な意見等)
子どもたちの好奇心・疑問・考える力・創造性が育つ機会を提供する	基本展示室を中心としたさまざまなところでインセンティブ(科学館新記録や収集物の完成の表彰など)を重視します		<p>昨年度に引き続き、九州大学との共同研究で開発した「ダーウィンコース」「ニュートンコース」を実施し、現役の研究者から実践的な「科学する力」を学ぶ機会を提供した。</p> <p>また、基本展示室の更新については、3月に壁面を利用した大画面の参加体験型展示「SCシアター」を公開した。参加者の興味に応じて様々なデジタルワークが体験できる、新しい展示を通して市民へ深い学びを提供することができた。</p> <p>また、子ども参画事業として「キッズクルー」事業を実施し、小学生3名が科学館スタッフとなり、子ども向けのパンフレットを作成するなど、子どもならではの目線を活かした活動を展開し、子どもたちの成長につながった。</p> <p>今後はより多くの子どもが参画できるよう、機会の提供の拡充に取り組まいたい。</p>
	人が育つという観点(好奇心・疑問・考える力・創造性の連鎖と意外性、劇的性、腑に落ちる感など)を取り入れながら、より効果的な使われ方をするように個々の展示アイテムを捉え直します		
	研究者やクリエイターに出会える場のあり方を考え、そのような場づくりに取り組みます		
	疑問の解決とともに、知的好奇心を刺激し、疑問を膨らませる方向でのサイエンスナビの活用を考えていきます		
	双方向性の強化によって科学や「科学する力」への関心を高めるようなプログラムを開発していきます		
	科学への受け身的態度から主体性を持った関心を引き出すような取り組みを進めます		
	子ども・市民の参画活動に積極的に取り組みます		
	一人ひとりの好奇心に対応していくように、クラブ活動を発展させます		
スーパーサイエンスジュニア(SSJ)事業を推進します			
人と人(スタッフを含む)の交流の場を設定していきます			
実現目標		中期重点実現目標	
一人ひとりの科学する力が伸びることに寄り添います	上記実行計画の内容が「人の育ち」に貢献していることの確認		
	興味・関心の高さにかかわらず一人ひとりの「人の育ち」の実現		
	基本展示室内での自ら学べる環境づくり		
	プログラム・クラブ活動受講者の高い満足度		
	子ども参画活動による子どもの成長		
	SSJ受講者の世界レベルでの活躍		
利用者スタッフの密な関係の構築			

【運営方針④】多様な市民、科学者、教員、保護者などと科学の協働プログラムを開発することによって、子どもたちが社会の中で成長できる環境づくりに貢献します。

実行計画		市評価	
中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)		評価	総評(総括的な意見等)
多様な市民、科学者、教員、保護者などと科学の協働プログラムを開発する	モデル校区を対象にした科学の協働プログラムを開発し、テストしていきます	A	<p>モデル校区の小学校において「活動支援型」の出前授業を実施した。通常の知識習得型の授業ではなく、子どもたちがお互いに対話しながら「考え・行動」することで主体的な学びを促す協働プログラム(令和3年度開始)を引き続き行った。</p> <p>第1次5カ年計画を通して、協働プログラムの取組みの方向性が見えてきたので、次期5カ年計画においても、引き続き、より多くの子どもたちへプログラムの提供を行うとともに、内容の充実にも努めていきたい。</p>
	科学館連携ネットワークやその他個別の連携・協働を面の広がりとして構築・推進します		
実現目標		中期重点実現目標	
子どもたちが社会のなかで成長できる環境づくりに貢献します	モデル校区での環境づくり(校区のよいところを発展させ、よくないところを改善するなど)の実現		
	子どもたちを中心としたモデル校区住民の成功感・達成感の獲得		
	連携・協働のなかでの環境づくりへの配慮		

【運営方針⑤】福岡の人、モノ、コトなど、様々な資源を活用することによって、市民が科学的な視野で地域とその未来をデザインし、発信する活動を支援します。

実行計画		市評価	
中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)		評価	総評(総括的な意見等)
福岡の人、モノ、コトなど、様々な資源を活用する	福岡のクリエイターや研究者などの活用により、多彩なプログラムを展開します	A	<p>官民様々な団体と連携し、それぞれの特性を活かしたワークショップやセミナーを幅広く開催した。特別展「ヒコーキ展-空に駆ける情熱-」の関連ではJALと協働し、特別チャーター便に乗りながら飛行機について学ぶ「空たび 夏休みチャーター-目指せ!飛行機ものしり博士-」を実施した。科学館だけでは実現できない非日常的な体験を参加者へ提供することができた。</p> <p>また、基本展示の更新に伴い、フクオカフィールドにおいて、福岡の生態系をテーマに、自然環境を守ることの大切さについて学べる展示「SCシアター」を新たに導入した。</p>
	子どもを含む地域住民参画事業を推進します		
	上記事業の成果を積極的に発信していきます		
	基本展示室の福岡のコーナーを改善します		
	サイエンスナビでの福岡に関係するコーナーを充実していきます		
実現目標		中期重点実現目標	
市民が科学的な視野で地域とその未来をデザインし、発信する活動を支援します	市民の「クリエイター」や「科学者」などへの成長プロセスの実現		
	地域住民参画事業への多くの市民の巻き込み		
	福岡市科学館のオリジナルコンテンツ開発		
	福岡に関係するコーナーの改善・充実による科学への関心の高揚		

【運営方針⑥】利用者との対話・交流を進めることによって、施設や事業の改善に努め、日々進化する科学館を目指します。

実行計画		市評価	
中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)		評価	総評(総括的な意見等)
利用者との対話・交流を進める	利用者・未利用者アンケート(聞き取りを含む)を作成・実施します。内容的には他館と異なる質(感動度を入れるなど)を持たせることに留意します	B	利用者アンケートの内容については、満足したプログラムや体験についての記述欄を設け、分析に活用しやすいよう改善に取り組んだ。 また、回答者に抽選でドームシアターの抽選券が当たるインセンティブ付きのアンケートを実施するなど、回収率の向上に努めた。 利用者アンケートの結果は、「大変満足」の割合が71%と前年度より高くなっており、アンケート結果の分析やスタッフ間の共有、改善策の検討など、日々の取組みの成果が現れていると言える。 引き続き、利用者の意見に真摯に対応し、様々な人にとってさらに利用しやすい魅力ある科学館となるよう取り組んでいただきたい。
	多くのリピーターを獲得していくため、リピーターからの意見聴取を行います		
	運営サポーターと科学館スタッフから意見聴取を行います		
	モニター制度を設置します		
	科学館を創っていくという立場からの声も吸い上げるため、アイデアボックス(仮称)などを作っていきます		
	市民からの意見・要望には真摯に対応し、そこから「科学館ファン」を増やしていきます		
アンケートやモニターの結果から真の意見・要望の掘り起こし(すなわち調査研究)を行います			
実現目標	中期重点実現目標		
施設や事業の改善に努め、日々進化 する科学館を目指 します	アンケートにおける高い満足度の実現		
	リピーターを含む市民の真の意見・要望の分析		
	市民の意見・要望に基づいた施設や事業の改善		
	「市民とともに創りあげる科学館」意識の醸成		

【運営方針⑦】その他運営方針に収まりきらない事業・活動

i) 科学館連携ネットワークを形成・推進する事業

実行計画		市評価	
中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)		評価	総評(総括的な意見等)
科学館携 ネットワークを形成・推 進する事業	ネットワーク形成を着実に進め、各連携先との信頼関係の構築に力を入れていきます	B	連携スクエアに出展している企業とのコラボ企画である「SDGs家族会議」は2年目を迎え、引き続き家族参加型のイベントを実施するなど、連携企業と協力関係の構築に取り組んでいる。 今後も、様々な団体と連携を図り、協働して事業を推進するとともに、新たな団体、講師のさらなる開拓を進めていただきたい。
	連携先との多くの共同事業を実施し、そのなかで多くの講師を登用します		
	科学とアートの連携を目的とした福岡市美術館との連携を図ります		
実現目標	中期重点実現目標		
/	連携先との信頼関係の構築		
	科学とアートの連携による新たな利用者層の開拓		

ii) 科学館組織が育つための事業・活動

実行計画		市評価	
中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)		評価	総評(総括的な意見等)
科学館組織が育つ ための事業・活動	スタッフのホスピタリティーの力を上げていくことに取り組みます	B	定期的にスタッフ、運営サポーターに対し、様々な研修を実施し、個々のスキルアップに努めている。 また、スタッフが外部に科学館の活動を発表する機会を設けるなど、スタッフの成長につながる取組みを積極的に行っていることは評価できる。 今後も、研修や発表等の機会を通して、スタッフやサポーターの技術・意欲の向上に努めていただきたい。
	不断に学習する組織へと成長するために、スタッフ間での対話を促進し、自己実現を図ります		
	スタッフと運営サポーターの協働による活動を実現します		
	スタッフ、運営サポーターに対する研修を定期的に行います		
実現目標	中期重点実現目標		
/	創発性を持った組織への変革		
	技術と意欲の向上を伴ったスタッフ・運営サポーターの成長		

iii) 科学館を科学する事業

実行計画		市評価	
中期重点実行計画 (実行計画の重要な内容の具体化)		評価	総評(総括的な意見等)
科学館を科学する 事業	ドームシアターなど科学館の施設・設備が人の脳や心理に与える影響の共同研究を行うことを企画します	C	新たな研究テーマの再検討を行い、実現に向けて取り組んでいただきたい。
実現目標	中期重点実現目標		
/	企画が進めば、実際に研究の遂行		
	その上で、さらにポジティブな結果が出たら、論文の発行、世界へ向けた情報発信		